

# できる<sup>®</sup>

サンプル

GIGA  
スクール構想  
に対応!

# ICT 授業

Teams for Educationと  
Microsoft 365で  
実現する対話的な学び

清水理史& できるシリーズ編集部



シリーズ  
累計 **7500万部突破**<sup>※1</sup>

ベストセラー  
**売上 No.1**<sup>※2</sup>

※1: 当社調べ ※2: 大手書店チェーン調べ

課題とゴールの提示

意見の比較や考察

実践事例

対話的で深い学びをICTで実現!  
授業の実践例がよくわかる。

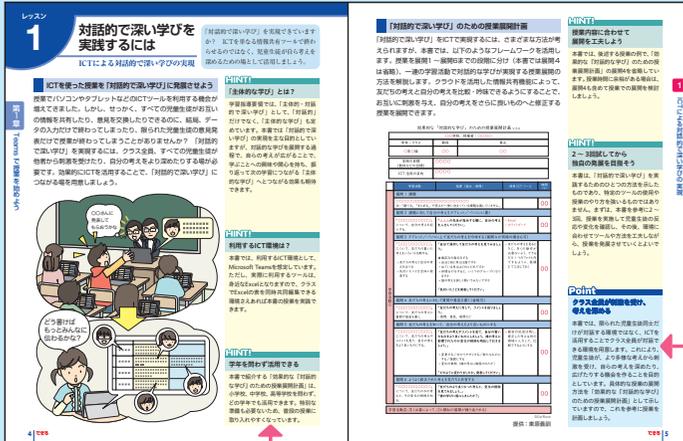
インプレス

## レッスン

見開き2ページを基本に、**やりたいことを簡潔に解説**

●**やりたいことが見つけやすいタイトル**  
「○○をするには」や「○○ってなに？」など、「やりたいこと」や「知りたいこと」がすぐに見つけられるタイトルがついています。

●**機能名で引けるサブタイトル**  
「あの機能を使うにはどうするんだっけ？」そんな時に便利。機能名やサービス名などで調べやすくなっています。



右ページのつめでは、**知りたい機能でページが探せます。**

## 手順

**必要な手順を、すべての画面とすべての操作を掲載して解説します。**

## Point

**操作の要点をていねいに解説。レッスンで解説している内容をより深く理解することで、確実に使いこなせるようになります。**

## ヒント

**レッスンに関連した、さまざまな機能を紹介したり、一歩進んだ使いこなしのテクニックまで解説します。**

## テクニック

**レッスンの内容を応用した、ワンランク上の使いこなしワザを解説しています。身につければパソコンがより便利になります。**

※ここで紹介している画面はイメージです。本書の内容と異なります。

## ●用語の使い方

本文中では、「Microsoft® Windows® 11」のことを「Windows」と記述しています。本書では、Windows 11の環境で画面を採取しています。本文中で記述している用語は、基本的に実際の画面に表示される名称に則っています。

## ●本書の前提

本書では、「Windows」がインストールされているパソコンで、インターネットに常時接続されている環境を前提に画面を再現しています。

## ●本書に掲載されている情報について

本書に掲載されている情報は、2022年11月現在のものです。本書の発行後に、情報が変更されることもあります。

「できる」「できるシリーズ」は、株式会社インプレスの登録商標です。その他、本書に記載されている会社名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーおよびサービス提供元の登録商標または商標です。なお、本文中には™および®マークは明記していません。

# 巻頭言

# サンプル

本書を拜見して驚くことは、あの使い慣れたExcel（エクセル）が「対話的な学びのツールにもなる」ということです。一般には表計算ソフトとして分類されてきたものですが、クラウドの時代になって一変しました。

これまでは、自分一人で、集計・グラフ化などのデータ処理や、名簿などの表を作成するために日常的に活用してきたExcelです。しかし、クラウド時代になって、Excelは複数の人が同時に書き込める「共同作業のためのワークシート」としての役割までも担うことになったのです。



Teamsの画面を開き、そこにあるExcelを選択すれば、そのTeamのメンバーなら誰でもがExcel上で出会えます。あるセルに自分が何かを書き込んでいる最中でも、別のセルに誰かが書き込んだ文字が突然現れます。大きな模造紙を前にしてグループメンバーが顔を突き合わせて同時に書き込んでいるようなことが画面上で起こります。同時共同編集などとも呼ばれる共同作業がExcel上で可能となったのです。

今や、分担して入力したデータを誰かの元へ集めて合体させるなどの作業は不要です。最初から、同じファイルに各自が分担分のデータを入力するだけです。順番を待つ必要もありません。どの行や列が自分の責任範囲であるかが明確なら、同時に作業しても大丈夫です。全員の入力が終わった時点で、表は完成です。

TeamsとExcelが作り出す新たなこの環境は、学習指導要領で示されている「対話的な学び」のための学習環境としても最適なものと言えます。決して分担作業ができるからではありません。もっと積極的な共同制作のためのツールとして活用できます。さらには、多様な個が協働して新たな価値（考え方、情報など）を創造する場として活用できます。児童生徒の書き込みを単に共有することだけでは新たな価値は生み出せません。友だち全員の書き込みをじっくり吟味する時間と、それに触発されて自分の考えをより良いものとして再度入力するための時間の確保が鍵となります。

これまで先生が説明していた深い内容にまで、児童生徒だけでたどり着ける可能性が出てきました。先生の新たな役割が問われる時代になったとも言えます。

対話的な学びのためのExcelの活用方法の詳細は本書をご覧ください。具体的な操作イメージ、望ましい授業のイメージをきっとつかんでいただくことができますと思います。

東原義訓（信州大学名誉教授）

## 目次

巻頭言…………… 1

### 第1章 Teamsで授業を始めよう 3

①	対話的で深い学びを実践するには <ICTによる対話的で深い学びの実現> ……………	4
②	対話的な学びのための授業展開 <意見の書き込み、吟味、修正> ……………	6
	<b>テクニック</b> 授業時間に余裕がある場合は「展開4」の実施も検討しよう ……………	13
③	TeamsでExcelやホワイトボードを使うには <Excelファイルの作成と共有> ……………	14
	<b>テクニック</b> Teams上のファイルをパソコンにダウンロードするには ……………	17
	<b>テクニック</b> 評価を記入したり並べ替えたりできるようにしよう ……………	17
	<b>テクニック</b> ホワイトボードも活用しよう ……………	21
④	対話的な授業の実践例を見てみよう <授業の実践例> ……………	22
	<b>事例</b> 渋谷区立千駄谷小学校 ……………	22
	<b>事例</b> 聖徳大学附属 取手聖徳女子中学校・高等学校 ……………	26
	この章のまとめ ……………	28

### 第2章 チームとチャネルをうまく使おう 29

⑤	チームとチャネルを使い分けるには <チームとチャネルの基本> ……………	30
⑥	チームとチャネルの構成事例 <チームとチャネルの構成例> ……………	32
	<b>事例</b> 大阪市立北鶴橋小学校 ……………	32
	<b>事例</b> 東京学芸大学附属小金井小学校 ……………	33
	<b>事例</b> 聖徳大学附属 取手聖徳女子中学校・高等学校 ……………	34
	<b>事例</b> 岐阜県教育委員会 ……………	35
	この章のまとめ ……………	36

付録 Microsoft 365 Education って何? …………… 37

## 第 1 章

# Teamsで授業を始めよう

ICTを活用して「対話的な学び」を授業で実践するには、どうすればよいのでしょうか？ この章では、Microsoft TeamsからExcelの表を共有することで、児童生徒が書き込んだ意見を共有したり、お互いの意見を吟味したり、自らの考えを改善したりできる授業の進め方を紹介します。

### ●この章の内容

- ① 対話的で深い学びを実践するには ..... 4
- ② 対話的な学びのための授業展開 ..... 6
- ③ TeamsでExcelやホワイトボードを使うには ..... 14
- ④ 対話的な授業の実践例を見てみよう ..... 22

# 対話的で深い学びを 実践するには

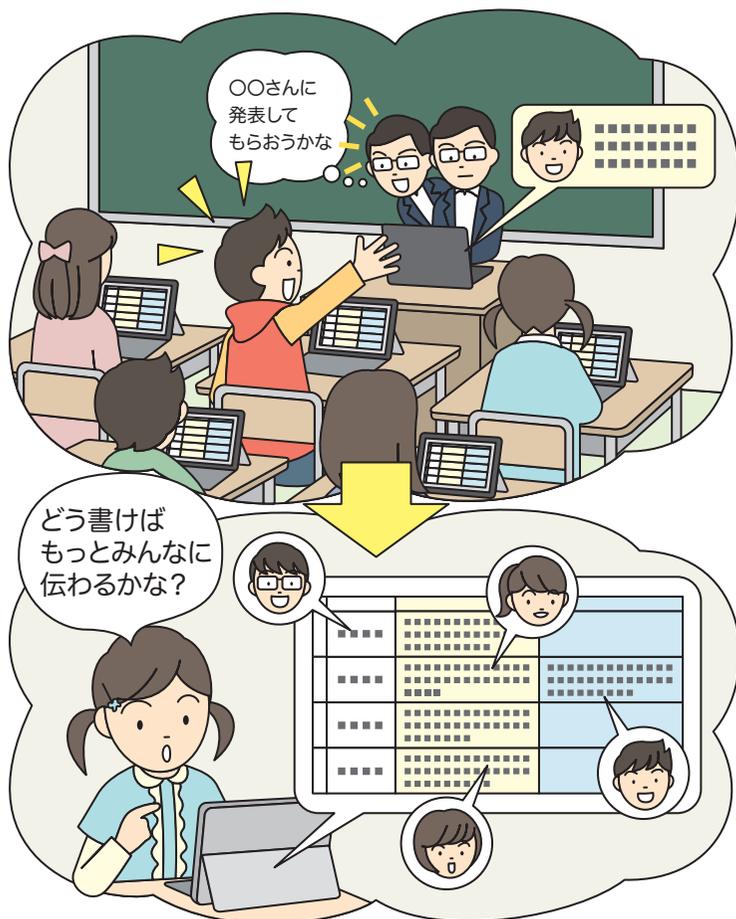
ICTによる対話的で深い学びの実現

## サンプル

「対話的で深い学び」を実現するには、ICTを単なる情報共有ツールで終わらせるのではなく、児童生徒が自ら考えを深めるための場として活用しましょう。

### ICTを使った授業を「対話的で深い学び」に発展させよう

授業でパソコンやタブレットなどのICTツールを利用する機会が増えてきました。しかし、せっかく、すべての児童生徒がお互いの情報を共有したり、意見を交換したりできるのに、結局、データの入力だけで終わってしまったり、限られた児童生徒の意見発表だけで授業が終わってしまうことはありませんか？ 「対話的で深い学び」を実現するには、クラス全員、すべての児童生徒が他者から刺激を受けたり、自分の考えをより深めたりする場が必要です。効果的にICTを活用することで、「対話的で深い学び」につながる場を用意しましょう。



### HINT!

#### 「主体的な学び」とは？

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」として、「対話的」だけでなく、「主体的な学び」も定めています。本書では「対話的で深い学び」の実現を主な目的としていますが、対話的な学びを展開する過程で、自らの考えが広がることで、学ぶことへの興味や関心を持ち、振り返って次の学習につながる「主体的な学び」へとつながる効果も期待できます。

### HINT!

#### 利用するICT環境は？

本書では、利用するICT環境として、Microsoft Teamsを想定しています。ただし、実際に利用するツールは、身近なExcelとなりますので、クラスでExcelの表を同時共同編集できる環境さえあれば本書の授業を実践できます。

### HINT!

#### 学年を問わず活用できる

本書で紹介する「効果的な『対話的な学び』のための授業展開計画」は、小学校、中学校、高等学校を問わず、どの学年でも活用できます。特別な準備も必要ないため、普段の授業に取り入れやすくなっています。

# サンプル

## 授業展開を工夫しよう

本書では、後述する授業の例で、「効果的な『対話的な学び』のための授業展開計画」の展開4を省略しています。授業時間に余裕がある場合は、展開4も含めて授業での展開を検討しましょう。

## 「対話的で深い学び」のための授業展開計画

「対話的で深い学び」をICTで実現するには、さまざまな方法が考えられますが、本書では、以下のようなフレームワークを活用します。授業を展開1～展開6までの段階に分け（本書では展開4は省略）、一連の学習活動で対話的な学びが実現する授業展開の方法を解説します。クラウドを活用した情報共有機能によって、友だちの考えと自分の考えを比較・吟味できるようにすることで、お互いに刺激を与え、自分の考えをさらに良いものへと修正する授業を展開できます。

効果的な「対話的な学び」のための授業展開計画 v2.0

○○学校、授業者：○○○○		
学年・クラス	教科	単元
○年○組	○○	○○
本時の目標 (教科などの目標)	○○○○	
ICT活用目的	○○○○	

学習活動	指導(指示・発問)	使用ICTツール	時間(分)
<b>展開1 課題</b>			
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 注:「調べる」「まとめる」や答えが一律に決まっている課題は適していません。			00
<b>展開2 課題に対して自分の考えをタブレット/パソコンに書く</b>			
「□□□□□□□□」について、自分の考えを記入する。	「△△△の先生が指示する欄に、自分の考えを入力してください」	・Excel ・ホワイトボード	00
<b>展開3 タブレット/パソコン上で友だちの考えを吟味する(展開4が同時の場合も可)</b>			
「□□□□□□□□」について、友だちの書いた考えをいろいろ比較する。  ・友だちの考えと自分の考えを比べる ・気付いたことを全体に発表する	「自分で操作して友だちの考えを見ましょう」  ★適宜次の指示をする ・自分と同じ考えは誰ですか ・似ている考えはどれとどれですか ・仲間分けをすると、いくつのグループになりますか ・誰の考えを詳しく聞いてみたいですか  「気付いたことを発表してください」	・友だちの考えを見るときに、多くの操作が必要ないよう、できるだけ1つのファイル内ですむように、展開2で工夫しておく	00
<b>展開4 友だちの考えに対して質問や意見を書く(省略可)</b>			
「□□□□□□□□」について、友だちの考えに質問や意見を書く。	「友だちの考えに対して、コメントを送りましょう」 ・質問、意見、感想など		00
<b>展開5 友だちの考えを知って、自分の考えをより良いものにする</b>			
「□□□□□□□□」について、友だちの考えやコメントを見て、自分の考えをより良いものにする。	「友だちの考えやコメントを見て、自分の書いたものをより良いものにしましょう。誰の考えに影響されたのか変化の根拠も明記しておきましょう。」  ・変更する/分かりやすくする/新たなものにする/強固にする ・変化の根拠(誰の考えに触発されたか)  「どのように変わりましたか。発表してください」	・最初の記述は残し、修正した考えは別の領域に入力して、比較できるようにする	00
<b>展開6 よりよく修正された考えを友だちと共有する</b>			
「□□□□□□□□」について、友だちの今の考えと、その変化の根拠を知る。	「友だちのより良くなった考えと、変化の根拠を見よう。」 「誰の学びに感心しましたか?」		00

学習活動②、③(必要によって、①と類似の展開が繰り返される)

## HINT!

### 2～3回試してから 独自の発展を目指そう

本書は、「対話的で深い学び」を実践するためのひとつの方法を示したものであり、特定のツールの使用や授業のやり方を強いるものではありません。本書で紹介した授業展開に沿った授業を2～3回試み、児童生徒に成果が表れてコツがつかめたら、このモデルを離れ、ご自身の授業設計の中にその勘所を反映して発展させていくとよいでしょう。

## Point

### クラス全員が刺激を受け、 考えを深める

本書では、限られた児童生徒同士だけが対話する環境ではなく、ICTを活用することでクラス全員が対話できる環境を用意します。これにより、児童生徒が、より多様な考えから刺激を受け、自らの考えを深めたり、広げたりする機会を作ることを目指しています。具体的な授業の展開方法を「効果的な『対話的な学び』のための授業展開計画」として示していますので、これを参考に授業を計画しましょう。

# 対話的な学びのための 授業展開

意見の書き込み、吟味、修正

## サンプル

「対話的で効果的な『対話的な学び』のための授業展開計画」を元に具体的な授業の進め方を解説します。

### 授業の計画を立てよう

まずは、授業の流れを確認し、実践するための計画を立てます。5ページに掲載した「効果的な『対話的な学び』のための授業展開計画」に授業の目標などを記入し、赤色の文字のところをその授業に適した表現に修正するだけで、授業計画は完成です。本書では、小学4年生の国語の授業を想定して、授業の流れを解説します。

- ・学年：小学校4年生
- ・教科：国語
- ・単元：「ごんぎつね」
- ・本時目標：指定した場面を読み、ごんの行動や気持ちの変化を想像しよう
- ・ICT活用の目的：友だちとの意見の共有ややりとりを通して自分の意見を深めたり変えたりすることができる。

### ● 授業の流れ



### HINT!

#### さまざまな授業で活用できる

本書では国語の授業を例に解説していますが、社会などほかの教科でも同じように授業展開1～6で進めることができます。

### HINT!

#### 意見が分かれる題材の方が活性化

本書の方法では、授業の題材（単元）も問いません。しかし、意見が分かれたり、多様化したりする題材の方が、児童生徒が他者から学ぶものが多く、考えを深めたり、広げたりするのに効果的です。

## 授業で使うツールと使い方

本書で紹介する授業では、ICTツールとしてExcelを利用します。A列に番号、B列に児童生徒の氏名が記入された表を用意し、C列に「初めの考え」、D列に「より良くした自分の考え」欄を用意します。その後、次のページ以降で紹介する流れに沿って、児童生徒がタブレット／パソコンから考えを入力したり、共有された友だちの考えを参照したりします。本書の授業の目的は、「友だちとの意見の共有ややりとりを通して自分の意見を深めたり変えたりすることができる」なので、最終的に、友だちの意見から受けた刺激によって、より良くした自分の意見をD列に記入してもらいます。

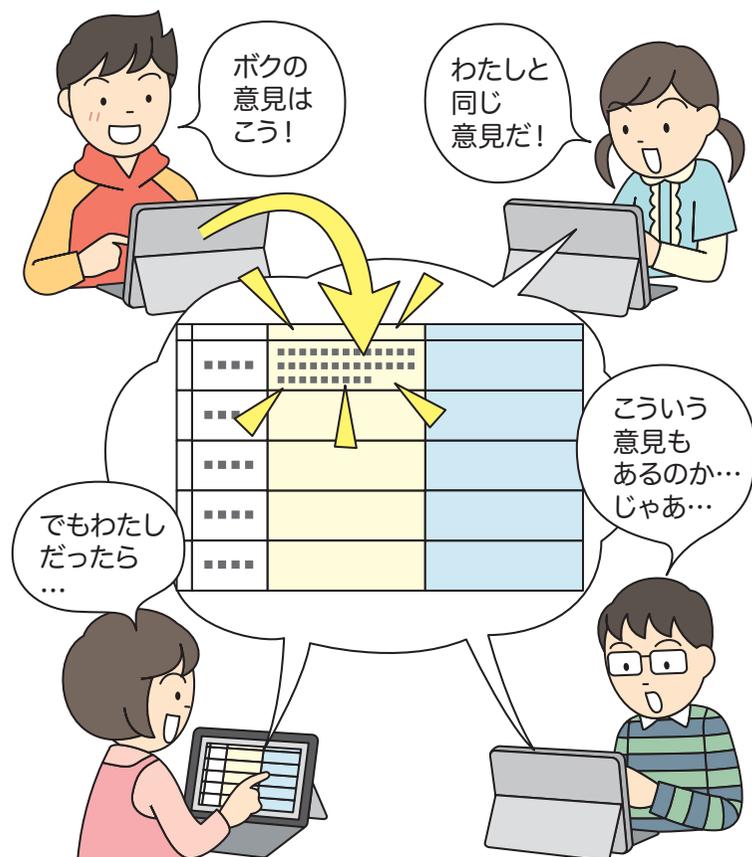


表  
確認しておこう

Excelの表の作成方法については、14～21ページで解説しています。折り返しを設定して長い文章を書きやすくしたり、先頭の行を固定し、画面をスクロールしても見やすくしたりするなど、児童生徒が使いやすい表を用意しておくことが重要です。

## HINT!

ホワイトボードでも授業ができる

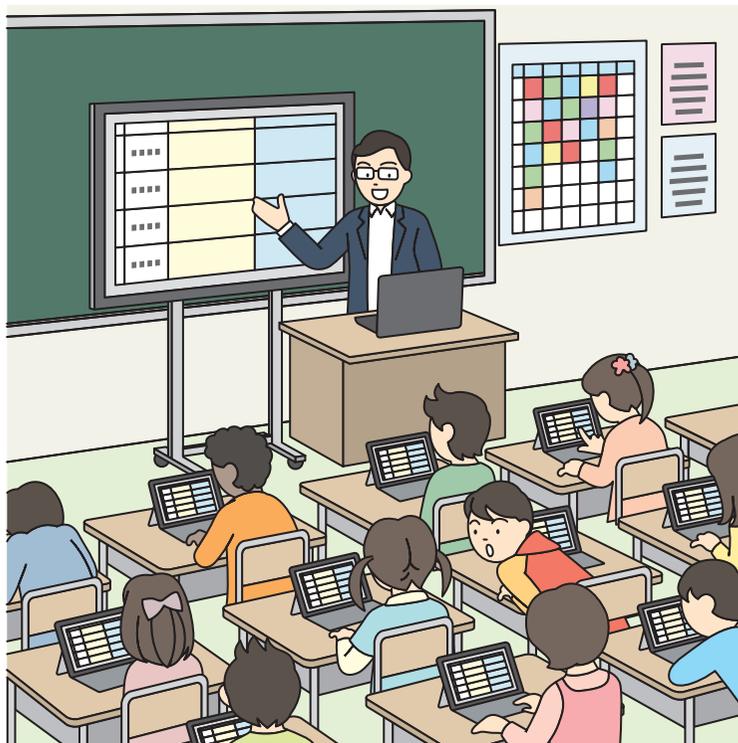
同様の授業は、Excelだけでなく、ホワイトボードを利用して進めることもできます。ホワイトボードの場合は、「メモ（付箋）」を利用して児童生徒の意見を共有しましょう。

## 展開1 課題

始めに、番号と氏名のみを記載したExcelの表をTeamsで児童生徒と共有し、Excelの表を開くよう指示します。また、本時の課題に児童生徒が取り組むことができるよう、授業の導入を行います。

- ・活動：本時の課題を理解する
- ・指示：「ごんの気持ちがどのように変化したのかに注意しながら、2の場面を読んでみましょう。Excelの表に皆さんの考えを書いてもらいます。」

番号	氏名	初めの自分の考え
1	市村 和也	
2	大島 真理	
3	岡 正平	
4	小黒 舞子	
5	春日井 龍之介	
6	加藤 夕	
7	古賀 弘樹	
8	坂本 秋	
9	杉山 真治	
10	十屋 直美	



# サンプル

## 名簿ファイルだけ

この授業を実施するために必要なことは、名簿ファイルを用意しておくことぐらいです。慣れてくると、授業を開始してからでも、ここで活用するExcelファイルは容易に準備できるほどです。

もちろん、児童生徒に提示する課題については、多様な考え方を引き出せるよう、十分な吟味が必要です。

## HINT!

### どのようなタイミングで実施すればいいの？

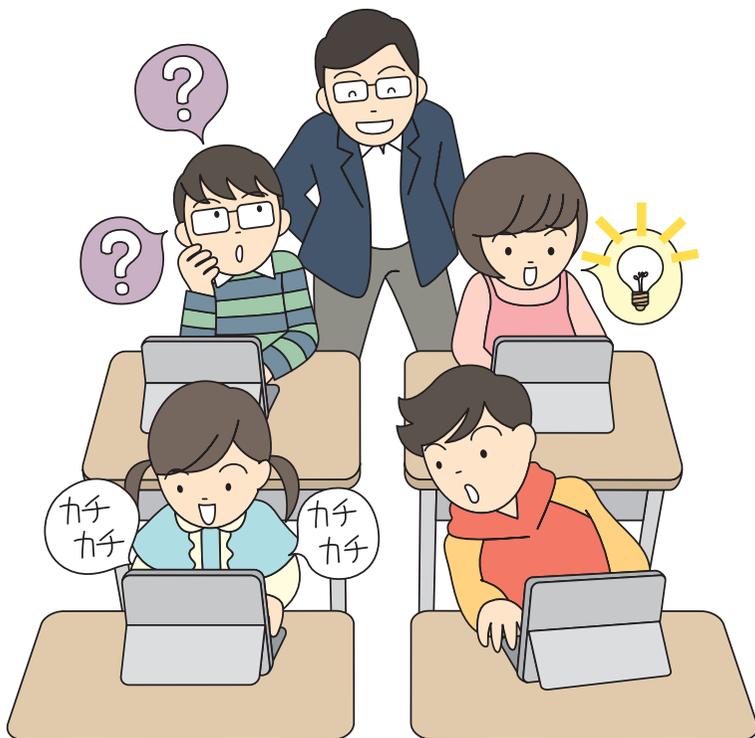
本書で紹介する授業は、どのようなタイミングで実施しても構いません。初めての単元の開始時、単元の途中、単元の終わりなど、タイミングは問いません。ただし、正解が一律には決まらない課題がこの指導方法には適していると言えるでしょう。

## 展開2 課題に対して自分の考えを書く

続いて、具体的な活動を指示します。課題を説明し、Excelの表の「初めの自分の考え」の欄に、課題についての自分の考えを書きこんでもらいましょう。

- ・活動：自分の考えを表現する
- ・指示：「ごんぎつねの2の場面で、ごんの気持ちはどのように変化しましたか？今の自分の考えを書いてみましょう。」

番号	氏名	初めの自分の考え
1	市村 和也	
2	大島 真理	秋なので、秋祭り
3	岡 正平	ごんは軽い気持ちでいたずらしたけど兵十のお母さんが死んじゃったとき兵十に申し訳ないなと思って反省した。
4	小黒 舞子	
5	春日井 龍之介	兵十のお母さんが死んでしまったときに後悔をしていたので自分のやってしまったことを反省して悪いと思う相手のことを思いやる心はある。
6	加藤 夕	ゴンはいたずらが楽しかったが、兵十のお母が亡くなってしまったのがっかりしている。
7	古賀 弘樹	
8	坂本 秋	



先生は、児童生徒の作業中は、課題についてあまり多くの情報を提示しないように注意しましょう。記入例などを話しすぎてしまうと、児童生徒の考えに影響を与え、意見が偏ってしまう場合があります。

### HINT!

#### 児童生徒の書き込みが終わったら

書き込みが終わった児童生徒には、友だちの考えを見るように指示します。

## 展開3 友だちの考えを吟味する

Excelの表に書き込まれた児童生徒の考えは、クラス全員で共有されています。全員の意見を見るように指示し、いろいろな考えがあり、自分と何が同じで何が違うのかを見てもらいましょう。

- ・活動：自分と同じ考え方は誰か、何通りぐらいの考え方があのかなどを考えながら、多様な考えに出会い、自分の考えを振り返る
- ・指示：「友だちの考えを、じっくり読んでみましょう。全員のを見てくださいね。」

番号	氏名	初めの自分の考え
1	市村 和也	自分のいたずらを後悔している。
2	大島 真理	秋なので、秋祭りだと思ったんだけど（楽しみだな～）兵十のお母さんのお葬式と知り少し焦ってゴンが食べてウナギを食べた事を後悔したので反省してる。
3	岡 正平	ごんは軽い気持ちでいたずらしたけど兵十のお母さんが死んじゃったとき兵十に申し訳ないなと思って反省した。
4	小黑 舞子	兵十のお母さんが死んでしまったときに後悔をしていたので自分のやってしまったことを反省して悪いと思う相手のことを思いやる心はある。
5	春日井 龍之介	兵十のお母さんが死んでしまったときに後悔をしていたので自分のやってしまったことを反省して悪いと思う相手のことを思いやる心はある。
6	加藤 夕	ゴンはいたずらが楽しかったが、兵十のお母が亡くなってしまったのがっかりしている。



### HINT!

先生自身も全員の考えを読もう

児童生徒に全員の考えを読むように伝えることが大切ですが、先生自身も児童生徒全員の考えをしっかりと読むようにしましょう。重要な意見を見逃したり、児童生徒の考えの変化に気付けなかったりする可能性があります。

## 展開5 友だちの考えを知って、自分の考えをより良いものにする

Excel上の隣の列に「より良くした自分の考え」の欄を用意し、友だちの考えに触れた後の自分の考えを記入してもらいます。多様な他者の考えを吟味することを通して、自分の考えをより深いものへと発展させます。

- ・活動：自分の考えを変えたり、分かりやすくしたり、新たなものにしたり、強固にしたりする
- ・指示：「友だちの考えを読んで、何か気付いたことはありましたか。友だちの考えも参考にして、自分の考えや表現をより良いものに改善しましょう。」

番号	氏名	初めの自分の考え	より良くした自分の考え
1	市村 和也	自分のいたずらを後悔している。	お祭りだと思っていたけど兵十のお母さんのお葬式だと知って自分のしたいたずらを後悔している。
2	大島 真理	秋なので、秋祭りだと思ったんだけど（楽しみだな〜）兵十のお母さんのお葬式と知り少し無くてゴンが食べてウナギを食べた事を後悔したので反省している。	厳初
3	岡 正平	ごんは軽い気持ちでいたはずだけど兵十のお母さんが死んじゃったとき兵十に申し訳ないなと思って反省した。	ごんは秋祭りかと思っていたはずだろうと思っていたけどお葬式で兵十のお母さん死んでしまったのを知ってあのいたずらがなかったら
4	小黒 舞子	兵十のお母さんが死んでしまったときに後悔をしていたので自分のやってしまったことを反省して悪いと思う相手のことを思いやる心はある。	
5	春日井 龍之介	兵十のお母さんが死んでしまったときに後悔をしていたので自分のやってしまったことを反省して悪いと思う相手のことを思いやる心はある。	
6	加藤 夕	ゴンはいざずらが楽しかったが、兵十のお母が亡くなってしまったのがっかりしている。	ゴンはあんないざずらをなぜしたのだろうと、後悔しているし、がっかりしている



### HINT!

#### 誰の影響を受けたかを書く

「より良くした自分の考え」の欄には、誰の影響を受けたのかも書くように伝えるといいでしょう。これは、引用時の出典を明記することに当たります。

### HINT!

#### 表現の変化や伝える工夫に着目しよう

児童生徒によっては、友だちの意見を参考に自分の表現を変えたり、友だちに自分の意見が伝わりやすくするために伝える工夫をしたりする場合があります。考えの内容だけでなく、こうした表現の変化にも注目して授業を進めましょう。

次のページに続く

## 展開6 より良く修正された考えを友だちと共有する

友だちが記入した「より良くした自分の考え」の欄を見てもらいましょう。その後、自分の考えや友だちの考えがどう変わったか、誰の考えに感心したのかなどを発表してもらいましょう。

- ・活動：考えの変化を共有する
- ・指示：「友だちの考えがどう改善されたか、じっくり見てみましょう」

番号	氏名	初めの自分の考え	より良くした自分の考え
1	市村 和也	自分のいたずらを後悔している。	お祭りだと思っていたけど兵十のお母さんのお葬式だと知って自分のいたずらを後悔している。
2	大島 真理	秋なので、秋祭りだと思ったんだけど（楽しみだな〜）兵十のお母さんのお葬式と知り少し無くてゴンが食べてウナギを食べた事を後悔したので反省している。	最初のゴンは、祭りだと思っていたが、そんなに騒いでなかったのを見に行くと、兵十のお母さんが死んだに気づき自分の事振り返りをしたら兵十が釣ったウナギを食べたのに気づいて結構反省している。後悔もしている！
3	岡 正平	ごんは軽い気持ちでいたはずだけど兵十のお母さんが死んじゃったとき兵十に申し訳ないなと思って反省した。	ごんは秋祭りかと思っていたはずだろうと思っていたけどお葬式で兵十のお母さん死んだのを知ってあのいたずらがなかったらお母さんにウナギを食べさせたかもしれないからと反省しているのですね！
4	小黒 舞子	兵十のお母さんが死んだときに後悔をしていたので自分のやってしまったことを反省して悪いと思う相手のことを思いやる心はある。	最初は秋祭りだと思っていて、楽しい気持ちになっていたけれど、葬式だと気づいて、誰の葬式かになり、兵十のお母さんと気づくと、自分のせいで兵十のお母さんが最後に食べたかったウナギを食べさせてあげられなくて、後悔している。



# サンプル

## 他者への自己肯定感が向上する

友だちの考えの変化を見ると、自分が影響を及ぼしていたことが分かったり、普段では気付いていなかった友だちの良さが見えてきたりします。この活動は、他者への尊敬の念を高め、自己肯定感を向上させることにもつながります。また、多様な他者の考えに触れることで新たな価値が創造できるということにも気付くことでしょう。

## HINT!

### いわゆる「まとめ」は不要

授業の最後に先生は、まとめを板書したくなるものですが、より良くした自分の考えをよく読んでみると、ほとんどの児童生徒が自分の言葉で「まとめ」に匹敵する表現をしていることに気付かれることでしょう。先生も、全員のより良くした自分の考えを読んでください。



## テクニック

# 授業時間に余裕がある場合は「展開4」の実施も検討しよう

授業時間に余裕がある場合は、本書で省略した「展開4 友だちの考えに対して質問や意見を書く」を実施することも検討しましょう。「初めの自分の考え」の右側に「感想・質問・意見」といった列を追加し、展開3で友だちの考えを見てもらった後に、気になる友だちの意見について表に記入してもらいます。感想や質問、意見により、より考えを深めることができます。

### 友だちへの質問を書き込める列を用意する

初めの自分の考え			
A	B	C	D
番号	氏名	初めの自分の考え	感想・質問・意見
1	市村 和也	自分のいたずらを後悔している。	
2	大島 真理	秋なので、秋祭りだと思ったんだけど（楽しみだな〜）兵十のお母さんのお葬式と知り少し無くてゴンが食べてウナギを食べた事を後悔したので反省している。	
3	岡 正平	ごんは軽い気持ちでいたはずだけど兵十のお母さんが死んだとき兵十に申し訳ないなと思って反省した。	
4	小黒 舞子	兵十のお母さんが死んでしまったときに後悔をしていたので自分のやってしまったことを反省して悪いと思う相手のことを思いやる心はある。	
5	春日井 龍之介	兵十のお母さんが死んでしまったときに後悔をしていたので自分のやってしまったことを反省して悪いと思う相手のことを思いやる心はある。	
6	加藤 夕	ゴンはいたずらが楽しかったが、兵十のお母が亡くなってしまったのがっかりしている。	



# サンプル

## 深めるのも効果的

友だちの考えについての議論を深めるには、グループワークも効果的です。小規模なグループで意見を交わしてから、全体で発表するなど授業を工夫してみましょう。

2

意見の書き込み、吟味、修正

## HINT!

### 考えの整理や分類にはホワイトボードも効果的

同じような考えをまとめたり、考えを分類して、その関係を整理したりしたいときは、レッスン③以降で解説しているホワイトボードを活用するのも効果的です。さまざまなツールを活用してみましょう。

## Point

### 「対話」の機会をICTで創出する

ここで紹介した例に沿って授業を進めることで、クラス全員、すべての児童生徒の考えを吟味し、さらに自分の考えを深めることができる「対話的で深い学び」を実践することができます。扱いやすいExcelの表を使ったシンプルなツールで実現できるため、児童生徒の年齢を問わず、しかも先生の負担になる事前の準備もほとんどなく、授業を展開できます。実際の教室で活用してみましょう。